

タマネギ

播種後の地温管理と畑の排水性に注意

タキイ研究農場 小林 輝紀



品種選定

🌱 晩抽性の高い早生「ポルト」

不安定な気候が続く中、在圃期間の短い早生タマネギは天候不順のリスクを減らせるメリットがあります。おすすめの品種は、寒さに強く、低温期の肥大にすぐれる「ポルト」です。

秋の気温が高い場合、苗の生育が進むことで大苗になりがちですが、大苗を植えると低温に感応しやすくなるため、抽苔の発生が増えます。「ポルト」は品種特性として抽苔や分球の発生が



↑玉のしまりがよく、立性で作りやすい晩抽早生種の「ポルト」。

少ないため、安心して栽培することができます。また、早生種としては草姿が立性で茎葉はかたくしまります。葉折れも少ないため、栽培中に葉が折り重なることによる過湿状態になりにくく、また、防除などの管理が行いやすいという特長もあります。

🌱 播種が遅れても肥大する「ネオアース」

「ネオアース」は、生育旺盛で作りやすい中晩生種です。例えば、残暑が長引いたり秋の天候不順で播種が遅れた場合でも、中間地では9月末、暖地では10月上旬までの播種で十分大きいタマネギを収穫できます。玉はしまりがよく、貯蔵病害も少ないため、年明けまでの貯蔵も可能です。



↑皮色が濃くつややかで外観もすぐれる「ネオアース」。

栽培ポイント

🌱 発芽、育苗を安定させるポイント

タマネギの発芽適温は20℃前後ですが近年は9月に入っても暑い日が続いています。地温が高いと発芽に悪影響を及ぼすため、播種後は地温を下げる管理が有効です。ベタがけ資材などの利用で直射日光を防ぐと効果があると同時に、土壌中の水分の蒸発をある程度防ぐ効果も得られます。

育苗中に苗が旺盛に生育して倒れる場合には、過湿による病気の発生を防ぐため、長さ20cm前後に苗を切るとよいでしょう。切る際には、病気の感染を防ぐために切り口が早く乾燥する晴天の午前中に行いましょう。

🌱 急な雨への対策

昨今の急な大雨や長雨に対応するためには、日ごろから圃場の排水をよくしておくことを心掛けましょう。過湿環境では、根が傷んで生育が悪くなったり、べと病などの病気が発生しやすくなります。

収穫は天気予報を見て晴天の日を見計らって行い、1〜2日天日干しをして、十分に乾かすことが重要です。ただし、収穫が遅れると裂皮や病害が多くなるので注意しましょう。

貯蔵は雨の当たらない風通しのよい場所です。適宜、腐敗したタマネギを取り除いて病気の蔓延を防ぎ、よい貯蔵環境をキープしましょう。



↑風通しのよい所ですって乾かす。